

『鷺巣敦哉著作集 補遺』（緑蔭書房、
平成 26 年 7 月 31 日刊）概要（再訂稿）

（令和 4（2022）年 7 月 28 日（木）現在）

（補正経緯）

（HP 初出）平成 26（2014）年 11 月 7 日（金）初稿作成
平成 26（2014）年 11 月 27 日（木）改訂稿作成
（台湾・国立公共資訊図書館「数位典藏服務網」（日
文舊籍）の件を追加、その他一部補正、追加
令和 4（2022）年 7 月 28 日（木）再訂稿作成
（レイアウトを全面変更した上で、一部補正、追加）

〔目 次〕

はしがき	2
1 本書編纂の経緯	2
2 鷺巣敦哉の個人著作の概要	3
3 『警察試験叢書 [第一編]』 「向上受験の手びき 附 全警察試験問題」 （改訂版）（抄録）	7
4 『警察試験叢書第四編』 「警察語学試験問題及解答集」 （抄録）	9
5 『台湾警察協会雑誌』	10
6 『台湾警察時報』	11
7 参考資料 1 「台湾警察歌」（省略）	12
8 参考資料 2 台湾総督府警察官及司獄官練習所「屋外掃除分担区域図」（同所『練習生必携』（昭和 19 年 1 月刊）所収、48 頁）	14
9 口絵解説	14
10 附録	16
【附録 1】 旧台湾警察諸警友会の回顧（省略）	16
【附録 2】 鷺巣敦哉略年譜（改訂稿）（省略）	16
【附録 3】 本 HP 掲載鷺巣敦哉氏関係資料一覧	16
あとがき	17

はじめに

鷺巣敦哉（わしすあつや、1896～1942）は、台湾総督府警務局編『台湾総督府警察沿革誌』（全六巻（含別篇）、昭和8～17年刊）の編者として著名である。

（※本 HP 別稿「鷺巣敦哉と『台湾総督府警察沿革誌』の編纂について—日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu001.pdf>〉参照。）。

同氏の個人著作については、平成10、12（2000、2002）年に中島利郎先生と『鷺巣敦哉著作集』（緑蔭書房刊、既刊六巻）として取りまとめたが、なお二、三遺漏があり、いずれ補充できればと願っていた。

（※本 HP 別稿「鷺巣敦哉氏著作目録抄—日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu002.pdf>〉参照。）

（※本 HP 別稿「『鷺巣敦哉著作集』V（「雑誌所収著作」：緑蔭書房、平成12年12月10日刊）及び同別巻（「警察試験叢書・雑誌所収著作補遺・索引」：同、平成14年1月31日刊）所収論稿一覧—日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisukiko.pdf>〉参照。）（平成26年11月27日追加）

（※本 HP 別稿「鷺巣敦哉氏『警察試験叢書第一編・向上受験の手びき 附 全警察試験問題』及び台湾総督府警察官及司獄官練習所『練習生必携』（昭和19年1月刊）一瞥—最近台湾再発見の日本統治下台湾警察史関係希覯書二題— 日本統治下台湾警察史の一齣—」〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisutebiki.pdf>〉参照。）（平成26年11月27日追加）

しかるに、先般多くの方々の御助力を得てこれらの一部を収録した『鷺巣敦哉著作集 補遺 警察試験叢書（続）・雑誌所収著作補遺（続）・索引』（緑蔭書房、平成26年7月31日刊）を刊行できた。

収録内容は、『警察試験叢書第一編・向上受験の手引き 附 全警察試験問題』（自己出版、昭和9年7月31日初版刊（未収録）、昭和14年9月6日改訂版刊（抄録）、巻頭に当時の督府警務局警務課長森田俊介氏（1899～1980）の「序文」あり。）、『警察試験叢書第四編・警察語学試験問題及解答集』（法院通訳 元練習所教官東方孝義氏（1889～1957）との共著、自己出版、昭和10年11月30日刊（抄録））、『台湾警察協会雑誌』、『台湾警察時報』各所収論稿、参考資料、附録、各種「索引」等である。

以下、本稿ではその概要を紹介しておくこととする。

1 本書編纂の経緯

本『鷺巣敦哉著作集 補遺 警察試験叢書（続）・雑誌所収著作補遺（続）・索引』（緑蔭書房、平成26年7月31日刊）（以下「本書」という。）は、『鷺巣敦哉著作集』の第七巻に当たる。台湾総督府警務局編『台湾総督府警察沿革誌』（全六巻（含別篇）、昭和8～17年刊）の編者であった鷺巣敦哉の個人著作については、十余年前に中島利郎教授と『鷺巣

敦哉著作集』(全六巻。緑蔭書房、I～V:平成12年12月10日刊、別巻:平成14年1月31日刊。以下『著作集』ともいう。)として編纂したが、その時点で未発見のものが二、三存在したことから、これらが判明すればいずれ「補遺」として出せればと考えていた。このため、鷺巣検討のために別に作成した私刊資料『鷺巣敦哉とその時代—日本統治下台湾警察史雑纂一』(既刊:正輯(雑纂第四輯)、続輯(雑纂第五輯)、続々輯(雑纂第六輯)、第三続輯(雑纂第七輯)、平成15年～平成19年作成)中に、『著作集』未収録著作でその後に入手できたものを取り敢えず『鷺巣敦哉著作集』補遺続集』として収録してきた。すなわち、次の二つである。

・『鷺巣敦哉著作集』補遺続集(第一輯)(『鷺巣敦哉とその時代(正輯)—日本統治下台湾警察史雑纂 第四輯一』(自己出版、平成15年8月1日刊))([特別収録]:『鷺巣敦哉著作集』補遺続集(第一輯)):『台湾警察協会雑誌』、『台湾警察時報』各所収残存稿を収録。これらについては中島利郎教授の収集に係る。)

・『鷺巣敦哉著作集』補遺続集(第二輯)(『鷺巣敦哉とその時代(続々輯)—日本統治下台湾警察史雑纂 第六輯一』(自己出版、平成18年1月1日刊))([特別収録]:『鷺巣敦哉著作集』補遺続集(第二輯)):『警察試験叢書第四編・警察語学試験問題及解答集』(抄録)等を収録。同書探書については、平成16(2004)年に台湾識者の御高配を忝うした。)

(本HP別稿「東方孝義・鷺巣敦哉両氏共編『警察語学試験問題及解答集』(警察試験叢書第四編、自己出版、昭和10年11月30日刊)の再発見—日本統治下台湾警察語学教養の一齣—」〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/higashikata001.pdf>〉参照。)

しかし、『著作集』未収録著作中最も重要と思われる『警察試験叢書第一編・向上受験の手びき 附 全警察試験問題』(自己出版、昭和9年7月31日初版刊、昭和14年9月6日改訂版刊)については、その後も国内及び台湾で探書に努めていたものの接することができず、最早一冊も残存しないのではないかとまで危惧していたところであった。

それが幸運にも去る平成23(2011)年秋にこれまた台湾識者の御厚情により見ることができ、かつ本書に収録をもお許しいただけた。これで、鷺巣敦哉の個人著作の大半は『著作集』に収録し得たことになるが、なお未判明、未発見のものが多少存在する。これらについては、今後も引き続き調査していきたく思っているため、大方の御示教を切にお願いするものである。なお、解説は紙幅の都合もあり本書理解上の必要限度に止めたことから、当時の台湾警察の概要とか鷺巣個人史等については、差し当たり既刊『著作集』各巻解説及び前掲私刊資料『鷺巣敦哉とその時代—日本統治下台湾警察史雑纂一』(既刊:正輯(雑纂第四輯)、続輯(雑纂第五輯)、続々輯(雑纂第六輯)、第三続輯(雑纂第七輯))及び本書【**附録2**】鷺巣敦哉略年譜(改訂稿)等を御参照いただければ幸いである。

2 鷺巣敦哉の個人著作の概要

鷺巣敦哉は、昭和7(1932)年1月16日に台湾総督府警察官及司獄官練習所教官を最後に退官した後昭和17(1942)年3月29日に逝去する¹までのたかだか十年の間に、は

¹ 鷺巣の逝去を伝える文献は少ないが、例えば、『台湾警察時報』第318号(昭和17年5月15日刊)掲

じめ台湾警察協会書記、次いで台湾総督府警務局囑託として、公的には『台湾総督府警察沿革誌』（全六巻（含別篇）、昭和8～17年刊）、『台湾警察遺芳録』（昭和15年刊）等を編纂するとともに、個人的にも著書を10冊程（未確認のものが存在する。）刊行した。まさしく異能の人であるといえる。これら個人著作は以下のとおりであるが、うち、『著作集』に既収録のものには※印、上記私刊資料『鷺巣敦哉とその時代（正輯、続々輯）—日本統治下台湾警察史雑纂—』に収録のものには※※印を、それぞれ付した。この他にも未知の個人著作があるのかは調査中であるが、当面は、特に下記⑥-1、⑥-2、⑦、⑩-1の探究が課題である。

① 『警察生活の打明け物語』（自己出版、昭和9年2月15日初版刊、同年4月25日第二版刊。巻頭に当時の督府警務局長石垣庫治（1880～1942）の「序文」あり。）（※I：初版を収録。）²

今回収録した下記⑤『警察語学試験問題及解答集』（昭和10年11月30日刊）及び②『向上受験の手引き』（改訂版）（昭和14年9月6日刊）の各「巻末広告」によれば、「第二版には練習所に於ける、甲、特、乙科生の卒業試験問題約200頁を附録としてある。」由である。

② 『警察試験叢書第一編・向上受験の手びき 附 全警察試験問題』（自己出版、昭和9年7月31日初版刊、昭和14年9月6日改訂版刊、巻頭に当時の督府警務局警務課長森田俊介（1899～1980）の「序文」あり。）⇒本巻に抄録。後掲「3 『警察試験叢書 [第一編]』 「向上受験の手びき 附 全警察試験問題』（改訂版）（抄録）」参照。

今回収録した同書改訂版表題には「警察試験叢書」の記載はあるが、何故か「第一編」の記載がない。同書初版が如何なるものであったかは不明であるが、第二編乃至第四編の表題にはそれぞれ編数が記載されていること、また、下記③本文10頁（※別巻24頁）には「本叢書の第一編向上受験の手びきに・・・」とあり、下記⑤掲載の『向上受験の手びき』（初版）関係広告（※本書222～223頁）はそれを「警察試験叢書第一編」と記載していること等から、同書は「警察試験叢書第一編」である。

③ 『警察試験叢書第二編・甲乙種巡査採用試験の実際と受験の要訣 附 試験問題及解答集』（自己出版、昭和10年2月15日刊、巻頭に当時の督府警務局警務課長森田俊介の「序文」あり。）（※別巻：抄録。）

④ 『警察試験叢書第三編・警察算術問題解法の秘訣』（台北一中教諭四宮勤一〈ママ〉との共著、自己出版、昭和10年2月15日刊）（※別巻：抄録。）

載の「任免異動」中「職員死亡」欄（107頁）に鷺巣の死亡記事あり。また、これを受けて、同誌第320号（昭和17年7月20日刊）掲載の佐藤生名義の連載稿「白日夢」中「星空」（48頁）に鷺巣の追悼記事がある。

² 同書は現在では台湾・国立公共資訊図書館「数位典藏服務網」（日文舊籍）で閲覧できる。（平成26年11月27日追加）

http://das.ntl.gov.tw/sp.asp?xdurl=sp.asp&spurl=xdcms/querly_for_front/search/search_ad.jsp?dtd_id=000075&ctNode=344

http://das.ntl.gov.tw/sp.asp?xdurl=BrowseTopic/gipControler.asp&uid=topic_result_detail&cur_do_index=1&xml_id=0001803062&ctNode=213&dtdname=%3A%E6%97%A5%E6%96%87%E8%88%8A%E7%B1%8D

共著者四宮勤一（マ、四ノ宮勤一、1907～1992）については、『著作集』別巻刊行時には刊行時台北一中教諭以外のことはよくわからず、その後も長く調査不十分であったが、平成 23（2011）年 11 月 9 日たまたまさる識者の御示教を得たことを契機に、改めて調べ直したところ同年 12 月に下記のことが判明した。同氏の御配慮に深甚の謝意を表するものである。

・2010（平成 22）年 2 月 25 日に、台湾で HP「台湾総督府府（官）報資料庫」が公開されたことから、督府関係の様々なことが容易に判明するようになった。

〈<http://tainsu-news.com/front/bin/ptdetail.phtml?Part=tp203>〉

〈<http://db2.lib.nccu.edu.tw/view/>〉

・「四宮勤一」の場合、「四宮勤一」では検出できず、「四ノ宮勤一」で辞令その他が検出できる。このことから、「四宮勤一」は正しくは「四ノ宮勤一」であることがわかる。これを踏まえて、「四ノ宮勤一」でネット検索すると、二、三のサイトで同氏名で『此の道一筋』（自己出版、昭和 44 年 9 月 30 日刊）なる著作が存在することが判明した。

・試みに上記『此の道一筋』をすぐ購入して読むに、口絵には「教育一筋の道に生涯を賭ける方々に本書を捧げる。四ノ宮勤一」記載入りの著者の写真が掲載されており、同書の内容のほとんどは戦後大分県高等学校教育界、同県教育委員会で活躍された時代のこのものであるが、一部に台湾在職時のこの記載もあり、同氏がまさしく鷺巣の共著者である「台北一中教諭四宮勤一」その人であることが確認できる。

・上記『此の道一筋』中で、台湾在職時及び離台後応召、復員以前のこの記載頁は、119、120、123、124、126、184、185、190～192、194～201 頁である。このうち、194～201 頁は「第 7 章 この道一筋」中の「4 この道一筋」であり、これで同氏の御経歴が判明するが、特に 199～201 頁には「履歴」が掲載されている。これから関係部分を抽出すると、「明治 40（1907）年 12 月静岡県生、昭和 4（1929）年 3 月広島高等師範学校理科一部卒業、同年 4 月福島師範学校教諭、昭和 5 年 4 月台北州立台北第一中学校教諭、昭和 13（1938）年 4 月任高等官七等 [奏任]、花蓮港庁立花蓮港高等女学校教諭、昭和 18（1943）年 6 月臨時召集、終戦時は在チモール島、昭和 21（1946）年 6 月復員、以後大分県在住」となる。なお、本『警察試験叢書第三編・警察算術問題解法の秘訣』関連記載はない。

・これよりすると、鷺巣との共著である同書を執筆したのは、20 歳代後半のお若き頃である。ちなみに、鷺巣は、同書冒頭の「はしがき二三」中「3 如何にして出来上りたるか」で、「(中略) これでは何時出来上るかも判らぬので、適当な共助者を物色して、台北一中の新進の数学教諭四宮勤一 [マ] 先生の快諾を得たのであった。先生に内情を打明けて、昨年 [昭和 9（1934）年] の暑中休暇を丸きり潰して助力して頂き、そして出来上つたのが本書である。(中略) 共著とは云ふもの、大部分は四宮先生の労力に帰すべきものである。(下略)」(はしがき 3～4 頁、『著作集』別巻 188～189 頁) と述べている。

・その後、別の方より同氏が平成 4（1992）年 1 月 2 日に長逝されたことを教示された。享年 84。謹んで御冥福をお祈りいたすものである。

⑤ 『警察試験叢書第四編・警察語学試験問題及解答集』（法院通訳 元練習所教官東方孝義（1889～1957）との共著、自己出版、昭和 10 年 11 月 30 日刊）(※※続々輯：抄録。) ⇒ 本書に抄録、後掲「4 『警察試験叢書第四編』「警察語学試験問題及解答集」(抄録)」参照³。

³ 同書は現在では台湾・国立公共資訊図書館「数位典藏服務網」（日文舊籍）で閲覧できる。（平成 26 年 11 月 27 日追加）

〈[http://das.ntl.gov.tw/sp.asp?xdurl=sp.asp&spurl=xdcn/query for front/search/search_ad.jsp?dtd_id=000075&ctNode=344](http://das.ntl.gov.tw/sp.asp?xdurl=sp.asp&spurl=xdcn/query%20for%20front/search/search_ad.jsp?dtd_id=000075&ctNode=344)〉

〈http://das.ntl.gov.tw/sp.asp?xdurl=BrowseTopic/gipControler.asp&uid=topic_result_detail&cur_do〉

⑥-1 『警察試験叢書第五編・問題を基本とした法制及び経済教科書』（未刊?。）

⑥-2 『台湾行政法講話 試験問題と其解答』（昭和 15 年か 16 年刊?。未発見。）

昭和 10 (1935) 年秋頃時点では、⑥-1 につき、上記⑤「巻末広告」に「続刊 近刊予告」、「菊版 1500 〈頁〉位の予定」と記載されていたが、その後実際に刊行されたか否かは不明であった。また、下記⑨『台湾保甲皇民化読本』第三版（昭和 16 年 11 月 20 日刊）の「巻末広告」で当時⑥-2『台湾行政法講話 試験問題と其解答』（四六版約 300 頁、定価 1 円 50 銭）（未発見）なる書籍が刊行されていることがわかるが、これと⑥-1 とが如何なる関係にあるかについても不明であった。しかるに、その後平成 23 (2011) 年に閲覧できた②『向上受験の手引き』（改訂版）（自己出版、昭和 14 年 9 月 6 日改訂版刊）「巻末広告」では、「=近刊予告= 台湾行政法講話（菊版三四百頁）」が掲載され、併せ、紹介文中に「計画中の問題を基本とした法制の参考書が尨大で容易に完成しないので先づ行政法だけを分けて印刷するのであります。」とある。これ及び上記⑨『台湾保甲皇民化読本』（第三版）の「巻末広告」からすると、⑥-1『警察試験叢書第五編 問題を基本とした法制及び経済教科書』はやはり刊行されず、その一部である⑥-2『台湾行政法講話 試験問題と其解答』なるものが刊行されていた可能性がある。ただ、これらは未確認であり、なお今後の課題である。

⑦ 『警察試験叢書第五編・警察作文講座及文範』（昭和 14 年刊?。未発見。）

上記②『向上受験の手びき』（改訂版）（昭和 14 年 9 月 6 日改訂版刊）110 頁に、『警察試験叢書第五編・警察作文講座及文範』のことが記載されている。同書はこの時点では既に刊行されていたとのことであるが、これまた未発見のものであり、今後の課題である。なお、上述のように、当初「警察試験叢書第五編」と称された⑥-1『警察試験叢書第五編 問題を基本とした法制及び経済教科書』が刊行されなかったことから、本⑦『警察試験叢書第五編・警察作文講座及文範』が「警察試験叢書第五編」となったものかと思われる。

⑧ 『台湾警察四十年史話』（自己出版、昭和 13 年 4 月 28 日初版刊、同年 11 月 15 日再版刊）（※Ⅱ：初版を収録。）

同書巻末には、「故人〔鷺巣令室のこと〕生前の面かげ」、「台湾警察四十年史話附録 本書執筆のゆはれ」、「子供等に伝ふる亡き母の面影げ」といった鷺巣敦哉研究上寔に貴重な文章、写真が収録されている。『著作集』Ⅱには河原功氏御秘蔵の初版本を収録し得た。同じ初版本でも何故かこれらが掲載されていないものがあり、同氏の御厚情に改めて感謝するものである。なお、閲覧できた再版本にはこれらは存在する。このあたりの事情については、例えば鷺巣「拙著台湾警察四十年史話について」『台湾警察時報』第 271 号（昭和 13 年 6 月 1 日刊）（『著作集』V 378～379 頁）の記載が参考になるとと思われるが、これも今後の課題である。

⑨ 『台湾保甲皇民化読本』（自己出版、昭和 16 年 6 月 20 日初版刊。台湾警察協会、昭和 16 年 8 月 31 日訂正増補再版刊。同、同年 11 月 20 日第三版刊）（※Ⅲ：第三版を収録。加えて※別巻に「初版はしがき」を収録。なお別巻解説 474～475 頁参照。）

同書については、この他、龍溪書舎平成 17 (2005) 年 5 月（日の記載はなし。）刊行分

[index=1&xml_id=0001807321&ctNode=213&dtname=%3A+%E6%97%A5%E6%96%87%E8%88%8A%E7%B1%8D](#)

の『20世紀日本のアジア関係重要研究資料』（サブタイトル：単行図書資料 旧満州・中国関係資料/台湾関係資料）9冊（セット、ISBN: 4844754807、税込価格:207,900円）の1冊（第78巻）として、第三版が復刻されている。

⑩-1 『爐辺夜話 台湾統治回顧談 台湾の領有と民心変化の巻』（自己出版、定価 1円60銭、四六版約400頁）（昭和15年か16年刊？。未発見。）

⑩-2 『台湾統治回顧談（台湾の領有と民心の変化）』（遺著、台湾警察協会、昭和18年9月20日初版刊。定価3円50銭。）（※IV〈初版のみ刊行か〉。鷺巢は昭和17〈1942〉年3月29日逝去。）

上記⑨『台湾保甲皇民化読本』第三版〈昭和16年11月20日刊〉「巻末広告」で、当時既に⑩-1『爐辺夜話 台湾統治回顧談 台湾の領有と民心変化の巻』なる書籍がおそらく自己出版で出ていることが判明するが、未発見であり、これがいかなるものかは不明である。おそらく鷺巢の死後この⑩-1を改題の上遺著の形で改めて公刊したものが⑩-2とも推測されるが、これも今後の課題である。このあたり中島利郎教授執筆の『著作集』IV所収「IV『台湾統治回顧談』解説」3頁に詳しい。御参照を乞う。また、鷺巢の⑩-2関連著作として、『著作集』別巻363～372頁所収論稿及び同巻解説473～474頁をも併せ御参照願いたい。なお、同書の編集人、発行者である篠原哲次郎（筆名 志能鏑川）は台湾警察協会幹事で、長く『警察時報』編輯主幹であったことから、台湾警察教養史上重要な地歩を占めており、また、鷺巢との個人的関係も深かったと思われることから、今後詳しく検討されるべき人物かと思われる。

3 『警察試験叢書 [第一編]』 「向上受験の手びき 附 全警察試験問題」』（改訂版）（抄録）

本『警察試験叢書 [第一編]・向上受験の手びき 附 全警察試験問題』（自己出版、昭和9年7月31日初版刊、昭和14年9月6日改訂版刊）については、『著作集』刊行時より長く台湾及び国内で渉猟を重ねてきたが、遺憾ながら最近まで接するに至らなかった。同書関連記載は、『著作集』刊行時には、鷺巢本人による『台湾警察時報』第227号（昭和9年10月1日刊）97頁（『著作集』別巻323頁）掲載の初版時の刊行状況を書いていたもの、上記③『警察試験叢書第二編・甲乙種巡查採用試験の実際と受験の要訣 附 試験問題及解答集』（自己出版、昭和10年2月15日刊）（『著作集』別巻所収）巻頭の督府警務局警務課長森田俊介の「序文」中記載とか上記⑨『台湾保甲皇民化読本』（台湾警察協会、昭和16年11月20日第三版刊）（『著作集』Ⅲ所収）掲載の巻末広告くらいしか判明していなかった。

しかるに、その後平成16（2004）年に至り上記⑤『警察試験叢書第四編・警察語学試験問題及解答集』（自己出版、昭和10年11月30日刊）が再発見されたことから、そこに掲載の「巻末広告」でおおよその内容が判明した。すなわち、⑤奥付けの後に広告があり、まず「警察試験叢書の発売所」紹介の後、「警察試験叢書刊行の趣旨」で同叢書刊行の意味が書かれ、次いで、同叢書第一～三編の紹介がある。このうち第二、三編については主要部分を既に『著作集』別巻に収録し得た。当時未発見の第一編『向上受験の手びき』（昭和9年7月31日初版）の内容紹介を見ると、『向上受験の手びき』（初版）は、三編に分

かれ、「第一編警察受験の手びき」は「一章警察で出世せんには、二章勉強の秘訣、三章各種試験の本体吟味と注意事項、四章各科の準備と最良参考書、五章試験にあたって」、
「第二編年次別各種問題」は「第一、巡查部長、第二、語学特科生採用、第三、甲科生採用、第四、警部警部補考試、第五、警察講習生選抜、第六、普通」各試験問題、「第三編各科分類試験問題」は「憲法、行政法、警察法、刑法、刑事訴訟法、法院条例、民法大意、経済大意、作文及警察常識、地理、歴史」となっており、総クロス、四六版、550頁、定価2円50銭とのことである。なお、当該広告によれば同書は「警察界の絶讃」を浴びたという。

この結果、同書は日本統治下台湾警察史の人事、教養制度検討上の重要な著作であることが判明し、その探究が喫緊の課題となったが、容易には見つからなかった。それが、上述のように、その後平成23(2011)年9月に至り、昭和14(1939)年9月6日刊の同書改訂版が台湾で再発見され、関係諸氏の御高配により漸くその全容を知ることができた次第である。

(※本HP別稿「鷺巣敦哉氏『警察試験叢書第一編・向上受験の手びき 附 全警察試験問題』及び台湾総督府警察官及司獄官練習所『練習生必携』(昭和19年1月刊)一瞥—最近台湾再発見の日本統治下台湾警察史関係希覯書二題— 一日本統治下台湾警察史の一齣—」(<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisutebiki.pdf>)参照。)(平成26年11月27日追加)

今回接し得たものは、昭和9年7月31日刊の初版ではなく、昭和14年9月6日刊の改訂版ではあるが、昭和13年度から開始された巡查部長養成のための台湾総督府警察官及司獄官練習所特別乙科(特乙科)制度⁴を踏まえたものであることから、日本統治下掉尾の警察教養制度の実態を知ることができ、このこともまた意味あるものといえる。また、巻頭に序文を寄せた当時の督府警務局警務課長森田俊介(1899~1980)は、鷺巣の練習所教官時代の上司である(『著作集』別巻273頁参照。)が、森田とは職務を越えて親しい間柄でもあったと思われる。森田は、昭和5(1930)年10月発生の霧社事件時の同警務局理蕃課長であるが、その後昭和16(1941)年5月台中州知事、同19(1944)年3月督府文教局長を経て同20(1945)年2月督府鉱工局長で終戦と督府要職を歴任した重要人物であり、その個人史検討も督府官界研究の今後の課題の一つといえる⁵。

なお、『著作集』Ⅲ所収の上記⑨『台湾保甲皇民化読本』第三版(昭和16年11月20日刊)「巻末広告」に、『普通試験甲科特科 受験の手びき 全試験問題集』(四六版六百余頁、定価2円40銭)なる著作が掲載されている。前に『著作集』別巻解説470頁では本『向上受験の手びき』との関係は不明としたが、今回これを閲覧し内容を確認できたこと、題名、定価、頁数等からみて、おそらくや『向上受験の手びき』のことを指すものと思われる。

⁴ 周知のように、往時の台湾警察においては、長年巡查部長制度の不備が指摘されていた。

⁵ 森田俊介『台湾の霧社事件—真相と背景—』(伸共社、昭和51年3月20日刊)、『内台五十年 回想と随筆』(伸共社、昭和54年4月20日刊)等参照。

4 『警察試験叢書第四編』「警察語学試験問題及解答集」⁶（抄録）

本『警察試験叢書第四編・警察語学試験問題及解答集』（東方孝義との共著、自己出版、昭和10年11月30日刊）も多年探し求めていたものの容易に判明しなかった著作であるが、平成16（2004）年に至って急に様々な展開があり、最終的には台湾識者の貴重な御示教に与った。その御厚情に深甚の謝意を表する次第である。

（※本 HP 別稿「東方孝義・鷺巣敦哉両氏共編『警察語学試験問題及解答集』（警察試験叢書第四編、自己出版、昭和10年11月30日刊）の再発見—日本統治下台湾警察語学教養の一齣—」

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/higashikata001.pdf>〉参照。）（平成26年11月27日追加）

同書は台湾語、台湾民俗研究の権威であった東方孝義（1889～1957）との共著であり、そのほとんどは東方の執筆かと思われる。当該期台湾警察における台湾語学習の研究資料としても大きな意義を有するものであるので、東方による解説部分「一、台湾語学上達法」（1～28頁）も本来ならば全部収録しておきたかったが、遺憾ながら紙幅の都合からほとんどを割愛せざるを得なかった。ちなみに、東方に関しては、中島利郎教授に詳細な「東方孝義著作年譜」『岐阜聖徳学園大学外国語学部中国語学科紀要』第3号（平成12年3月31日刊）がある。御参照願いたい。なお、鷺巣本人の語学に対する考え方については、②『向上受験の手びき』（改訂版）（昭和14年9月6日刊）114～117頁を参照。なお、上記②（改訂版）巻末広告には、「警察試験叢書第四編」として何故か『全語学試験問題模範答案集』（四六版、約600頁、定価2円）なる名称の著作の記載がある。これと同書との関係は不明であるが、おそらくや同一のものかと思われる。

同書については、台湾ではさておき、国内では夙に篠原正巳氏（1917～2004）がその存在を指摘されていたが⁷、その表題からして、おそらく鷺巣の一連の「警察試験叢書」の一

⁶ 同書は現在では台湾・国立公共資訊図書館「数位典藏服務網」（日文舊籍）で閲覧できる。（平成26年11月27日追加）

〈http://das.ntl.gov.tw/sp.asp?xdurl=sp.asp&spurl=xdcn/query_for_front/search/search_ad.jsp?dtd_id=000075&ctNode=344〉

〈http://das.ntl.gov.tw/sp.asp?xdurl=BrowseTopic/gipControler.asp&uid=topic_result_detail&cur_do_index=1&xml_id=0001807321&ctNode=213&dtname=+%3A+%E6%97%A5%E6%96%87%E8%88%8A%E7%B1%8D〉

⁷ 篠原正巳『日本人と台湾語—統台湾語雑考一』（自己出版、平成11年6月1日刊。『台湾協会報』第542号（平成11年11月15日刊）所収「新刊紹介」参照。）62頁以下は、東方孝義のことに触れており、同氏の著書として、『台湾語の学び方』（自己出版、大正15年刊）及び『語学試験問題並解答集』[マ]（自己出版、鷺巣敦哉氏と共著、昭和10年刊）をあげていた。その頃頂戴した篠原氏の御示教によると、その出処は、1993（平成5）年2月台北・武陵出版有限公司が復刻した『日台大辞典』（台湾総督府総務局学務課、明治40年3月30日刊）の解説中の「日治時代台語著作目録」（1990年陳恒嘉氏初稿、1991年洪惟仁氏補正）とのことであった。これらは、いずれも、ネット検索対応が未だ不十分であった当時ではなかなか知り得ぬことであって、特に後者は、鷺巣敦哉検討を続けていた編者にも多大の関心があり、原本を見る機会のあることを長く願っていたところであった。

編ではないかと推測されていた（『著作集』別巻 471 頁）。再発見されたものを見るに、同書は鷺巣、東方両氏研究、更には日本統治下台湾警察史、同台湾語研究史上極めて価値のある貴重な著作である。以下一、二紹介しておく。

・同書は、やはり鷺巣敦哉編の「警察試験叢書」の一編で、その第四編に当たり、鷺巣による自己出版、昭和 10（1935）年 11 月 30 日刊、定価 2 円 30 銭である。東方の肩書きは「法院通訳 元練習所教官」、鷺巣のそれは「総督府嘱託」とある。「警察試験叢書」第一、二編と同じくここにも当時の督府警務局警務課長森田俊介が序文を寄せている。

・鷺巣は、「はしがき」で、「苟も、台湾の警察に職を奉ずる者が、その職務を完全に遂行せんが為めには、本島用語に熟達してみなければならぬことは、

今更吾々が喋喋を要しない処である。」として、以下台湾語学習の重要性、必要性を説き、「本書の問題解答には、曾て練習所語学教官として好評噴々、今は法院通訳として、その実力と熱心に定評のある畏友東方氏を煩はしたものである（以下省略）」と、東方と同書との関係に言及している。

・同書冒頭には、28 頁に及ぶ「東方生」による「一、台湾語学上達法」があり、その後、535 頁にわたって「二、巡査部長試験の語学、三、甲特科予備試験の語学、三 [ママ]、語学特科採用試験の語学、四、甲科生採用試験の語学、五、警部警部補考試験の語学、六、普通試験の語学、七、乙種語学試験、八、甲種語学試験」の各種語学試験問題と解答が掲載されている。

・奥付けの後に、広告がある。まず「警察試験叢書の発売所」紹介の後、「警察試験叢書刊行の趣旨」では同叢書刊行の意味が書かれている。次いで、同叢書第一～三編の紹介がある。うち第二、三編については主要部分を既に『著作集』別巻に収録したが、当時未発見の第一編『向上受験の手びき』初版（昭和 9 年 7 月 31 日刊）の詳細な内容紹介も存在しており、上述のように、これでその内容についてはおおよそ把握できるようになった（本書 222～223 頁参照。）。なお、『向上受験の手びき』については、上記「3 『警察試験叢書 [第一編]』「向上受験の手びき 附 全警察試験問題」』（改訂版）（抄録）」参照。

・更に、「続刊 近刊予告」として、上記⑥-1『警察試験叢書第五編問題を基本とした法制及び経済教科書』（菊版千五百（頁）位の予定）のことが掲載されているが、これについては、上記解説 2 ⑥-1、⑥-2 参照。

・最後に、上記①『警察生活の打明け物語』（※Ⅰ）の紹介がある。これには、第一版、第二版があるが、上述のように、本記事により第二版は「練習所に於ける、甲、特、乙科生の卒業試験問題約二百頁を附録としてある。」（四六版、附録共で六百余頁との由）とこのことがわかり、両版本の差異が判明した。

・なお、同書刊行後の翌昭和 11（1936）年 3 月には鷺巣令室が病床に就きその後一年有余の闘病生活を送っており、その中で次の著作の上記⑤『台湾警察四十年史話』（※Ⅱ）が執筆されている（『著作集』V378 頁）。

5 『台湾警察協会雑誌』

周知のように、『台湾警察協会雑誌』及びその後継誌『台湾警察時報』は、日本統治下台

湾史及び同警察史検討上の重要資料である。これらの全体内容については、中島利郎・林原文子編『『台湾警察協会雑誌』『台湾警察時報』総目録』（緑蔭書房、平成10年8月25日刊）参照⁸。両誌は、一時期台湾で復刻されるといわれたが、最終的には、国立中央図書館台湾分館（現国立台湾図書館）所蔵本を基に、マイクロ資料「『台湾警察協会雑誌』第1号～第149号（大正6年～昭和4年）、『台湾警察時報』第1号（通巻第150号）～第335号（昭和5年～昭和18年。昭和5年より『台湾警察時報』に改名。欠号、第326～328号）28リール16mm 国立中央図書館台湾分館員工消費合作社2002（平成14）年刊（日本代理店）雄松堂」として刊行された。

本書では、『著作集』V、別巻刊行後に把握出来た下記の如き鷺巢の『台湾警察協会雑誌』寄稿文等を収録した（※※正輯）。

- ① 台中州警部補 AW 学人「警察官の立場から」『台湾警察協会雑誌』第80号（大正13年1月25日刊）77～80頁
- ② 台中州警部補 AW 学人「公娼廃止論」『台湾警察協会雑誌』第82号（大正13年3月25日刊）45～49頁
- ③ 台中州警部補 AW 学人「戸口事務移管に就て」『台湾警察協会雑誌』第88号（大正13年9月25日刊）92～95頁
- ④ 「第13回懸賞論文当選発表」『台湾警察協会雑誌』第146号（昭和4年8月1日刊）183頁
- ⑤ 練習所教官鷺巢敦哉「外勤警察を論じ郡警察制度に及ぶ」（第13回懸賞論文二等〈第二席〉、銀牌＝副賞金拾円）『台湾警察協会雑誌』第147号（昭和4年9月1日刊）146～153頁。

6 『台湾警察時報』

本書では、上記『台湾警察協会雑誌』と同じく、その後に把握出来た下記の如き『著作集』V、別巻未収録の鷺巢の『台湾警察時報』寄稿文を収録した。うち、①については、原本がタブロイド版のため、編集の上収録した（※※正輯）。

- ① 鷺巢生「練習所通信」『台湾警察時報』第6号（通巻第155号、昭和5年3月15日刊）37頁（「談話」中の「安達謙蔵練習生」）。本「安達謙蔵練習生」一文は、鷺巢の父（鷺巢保雪）、兄（名不詳）のことに言及しており、特に貴重である。なお、本「談話」中にある「トンネル長屋」等は先に『著作集』別巻285頁に収録した（ただし、これは鷺巢が編輯したものではあるが別人（某部長班員）の著作と思われる。）が、本「安達謙蔵練習生」は

⁸ 当該期警察史検討には、当時刊行の諸雑誌に当たる必要があり、これにつき、中島利郎教授は夙に『台湾時報』、『台湾警察協会雑誌』、『台湾警察時報』、『台法月報』及び『台湾教育』等といった主要雑誌の目録を作成、刊行されておられたが、先年中島利郎編『『台湾地方行政』総目・人名索引〔試行本〕』（緑蔭書房、平成21年9月30日刊）をも上梓された。この分野の更なる進展が期待されるところである。

不手際から何故か未収録であったことをお詫び申し上げる。なお、当該「安達謙蔵練習生」につき、『著作集』別巻 305 頁所収の「安達謙蔵君の感慨」参照。

② 鷺巢生「時局下の内地旅行漫談」『台湾警察時報』第 297 号（昭和 15 年 8 月 5 日刊）16～21 頁。ただし 17～21 頁分は削除、廃棄されている。その理由につき、『台湾警察時報』第 298 号（昭和 15 年 9 月 10 日刊）30 頁（『著作集』V 469 頁）参照。

7 参考資料 1 台湾警察歌

（収録資料）

- ① 「懸賞募集 台湾警察歌 当選発表」『台湾警察協会雑誌』第 137 号（昭和 3 年 11 月 25 日刊）130～132 頁
- ② 「台湾警察歌の制定」『台湾警察協会雑誌』第 139 号（昭和 4 年 1 月 1 日刊）12～13 頁
- ③ 「台湾招魂歌及台湾警察歌の制定」台湾総督府警務局編『台湾総督府警察沿革誌 第三編 警務事績編』（台湾総督府警務局、昭和 9 年 12 月 17 日刊）1187～1188 頁

「台湾警察歌」については、先に『著作集』I 解説 15 頁、別巻 464、477 頁で触れ、その後一、二物した⁹が、澤村胡夷（専太郎、1884～1930）最後の詩作と思われ、その意味でも極めて貴重なものであることから、本書でも少しく言及しておく。（以下省略）

（参考）

本件については、下記各参照。

- ・本 HP 別稿「澤村胡夷と台湾警察歌—日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sawamura001.pdf>〉

- ・本 HP 別稿「「台湾警察歌」の作曲者一條愼三郎氏の御業績を巡って— 一條元美氏の御長逝を悼みて—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ichijo001.pdf>〉

- ・本 HP 別稿「再び澤村胡夷作詞「台湾警察歌」及び「サヨンの鐘」について—日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/futatabi.pdf>〉

8 参考資料 2 台湾総督府警察官及司獄官練習所「屋外掃除分担区域図」（同所『練習生必携』〈昭和 19 年 1 月刊〉所収、48 頁）

日本統治下台湾警察史、ひいては、同台湾史を眺めるに際しては、警察官養成機関であった練習所（台北市八甲町一丁目、当時は「警官練習所」とも略称されていたようである。）

⁹ 拙稿「澤村胡夷と台湾警察歌」『台湾協会報』580 号（平成 15 年 1 月 15 日刊）、「再び澤村胡夷作詞「台湾警察歌」及び「サヨンの鐘」について—日本統治下台湾警察史の一齣—」『法史学研究会会報』第 12 号（平成 20 年 3 月 25 日刊）96～100 頁。

についても、検討する必要がある。ちなみに、鷺巣は、昭和4（1929）年5月18日に練習所教官（判任）に転じ、同7（1932）年1月16日にそれを最後に退官している。

機会あって昭和四十年代半ばにその跡地（当時台北市広州街20号、中央警官学校）を訪うたことがあるが、当時はまだ練習所時代の建物が多く残存していた。しかるに、先頃さる知人から恵投に与った同所旧址の現状（万華区南寧路46号、台北市立龍山国民中学）の写真を見るに、練習所の遺物は何もなく、往時茫々まさに夢の如しであり、改めて同所のことを想起したところである。

戦前も戦後も、諸学校では一般に『一覽』とか『便覽』の類が刊行されている。本『練習生必携』（昭和19年1月刊）もそのようなものの一つであるが、練習生が知っておくべき心得、関係法規等が網羅されている。ただ、残念なことに、戦前期の『一覽』によくあるような学校の概要、沿革、教育内容等の記載はない¹⁰。『練習生必携』なるものが、毎年刊行されていたのか否かは確認できないが、今回接し得たものは、昭和19（1944）年1月時点の内容であって、従来ほとんど判明していなかった日本統治下最後あたりの練習所の諸状況を知り得ることは、寔に貴重である。特に、ここに参考資料2として収録した同書48頁掲載の「屋外掃除分担区域図」に見る練習所の配置図は興味深い。この時期に練習所の新庁舎、新講堂が建築されたと聞いていたが、このことは終戦に近い時期のこともあって今まで判然としていなかった。しかるに、同図はその状況を伝えており、珍重されるべきものである。また、去る平成23（2011）年春台湾識者より同地のHP「林小昇之米克斯拼盤」中「警察官及司獄官練習所（2011年2月17日掲載）」¹¹の紹介を受けたが、同所載の諸写真のうち有名な昭和20（1945）年5月31日の台北大空襲後の同年6月17日米軍撮影に係る練習所航空写真は、初めて見るもので驚いた。本図をこれと照合すると極めて面白いものがある。

同写真からでは、練習所は空襲による被害はなかった模様である。なお、本図左側に見える鉄道は縦貫線で、下が台北駅方向、上が万華駅方向に当たる。

なお、練習所関係で現在見ることができるHPとしては、例えば次のものがある。御参照願いたい。

・松尾弘「思い出の植民政策」

〈https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/10388/1/sentanyusu_39-40_2.pdf〉

・「八十の手習い日記」〈<http://altism0127.exblog.jp/>〉「桜から思い出すこと」（2007年3月31日）

¹⁰ 練習所については、『甲科修了者 考試合格者氏名録』（台湾総督府警察官及司獄官練習所、昭和19年5月1日刊。戦後、昭和56年7月に新竹警友会常務理事湯川秀吉（1904~1992）の再刊序文を付して再刊。）なるものが刊行されているが、これは、当時の判任教官湯川秀吉（昭和18年1月29日就任）が編輯されたものである。戦後『新竹警友会報』の編輯実務等を主宰された同氏から察して、『練習生必携』もおそらく同氏の関与が大きいと見てもよいのではないかと思われる。

¹¹ 台湾 HP「林小昇之米克斯拼盤」中「警察官及司獄官練習所（2011年2月17日掲載）」
〈http://linchunsheng.blogspot.com/2011/02/blog-post_17.html〉

9 口絵解説

①『台湾警察専科学校創校一一三週年紀念特刊 飛躍世紀 傳承興隆 日治時期台湾総督府警察官及司獄官練習所』（同校、2011（民国 100）年 10 月刊）表紙（台湾総督府警察官及司獄官練習所正門）

② 同書奥付

去る平成 22（2010）年秋、台湾で台湾警察専科学校副教授劉恵璇博士「日治時期之「台湾総督府警察官及司獄官練習所」（1898～1937）—台湾警察専科学校校史探源（上篇）—」『警専学報』第 4 卷第 8 期（台湾警察専科学校、民国 99（2010）年 10 月刊）63～94 頁（ネット版、抽印本もあり。）が公表され、次いで、翌春下篇も出された（同誌第 5 卷第 1 期（民国 100（2011）年 4 月刊）1～34 頁、ネット版、抽印本もあり。）。台湾警察専科学校（〈<http://www.tpa.edu.tw/>〉）は台湾総督府警察官及司獄官練習所をその前身とする由であるが、同稿は、極めて精緻な練習所史研究で、価値あるものである。その後、同年 10 月に至り、同校は上記劉恵璇博士の玉稿を一つにまとめた上で、写真集『台湾総督府警察官及司獄官練習所写真帖』（刊行年不詳。復刻）、外部寄稿論文等を集成し、表題の如き記念誌を公刊された。ただただ敬服に堪えない次第である。

本書では、その表紙に見る練習所の風景が驚巢敦哉が教官として教えた当時のものかと思われることから、同書の紹介を兼ね、表紙、奥付を口絵として掲載した。なお、ここに見る「海行かば」の歌詞が刻印されている練習所の有名な門柱については、『著作集』I 口絵、はしがきの次頁「ゆはれ深き練習所門柱の由来記」、同解説 14 頁に詳しい。御参照願えれば幸いである。

（参考）

・本 HP 別稿「台湾総督府警察官及司獄官練習所覚書—日本統治下台湾警察史の一齣—」〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/reنشushouta.pdf>〉参照。

③ 八甲寮（台湾総督府警察官及司獄官練習所練習生寮、昭和 12 年頃）

八甲寮は、台湾総督府警察官及司獄官練習所練習生寮の名称であるが、名称は練習所所在地が台北市八甲町一丁目であったことに由来する。本写真は、『新竹警友会報』第 179 号（平成 6 年 1 月 10 日刊）第 3 面掲載のもので、同紙編輯者小橋従道氏（1917～2009）の「太平洋の空遠く 輝く南十字星」なる記事に付されているものである。撮影時期は同氏練習所乙科在所中の昭和 12～13 年頃のものと思われるが、寮は戦後台湾の台湾省警察学校を経て中央警官学校が 1970 年代中頃に別の地に移転するまでやはり学生寮として使用されていた。前掲参考資料 2「屋外掃除分担区域図」（台湾総督府警察官及司獄官練習所『練習生必携』〈昭和 19 年 1 月刊〉所収）をも参照。ちなみに、小橋氏「太平洋の空遠く 輝く南十字星」は、有名な軍歌「台湾軍の歌」（昭和 15 年制定、作詞：台湾軍報道部、作曲：山田栄一）の歌い出し部分である。また、『新竹警友会報』第 179 号の題字も併せて収載した。

(参考)

- ・本HP別稿「「台湾軍の歌」覚書—日本統治下台湾諸歌の一齣—」
(<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/taiwangunka.pdf>) 参照。

④～⑧『鷺巣敦哉著作集』関係人物

④鷺巣敦哉(1896～1942)に加えて、⑤『警察生活の打明け物語』(『著作集』I)に序文を寄せた石垣倉治(当時督府警務局長、練習所長兼任、1880～1942)、⑥『向上受験の手びき』(『著作集』補遺)及び『甲乙種巡査採用試験の実際と受験の要訣』(『著作集』別巻)に序文を寄せた森田俊介(当時督府警務局警務課長、1899～1980)、⑦『警察算術問題解法の秘訣』(『著作集』別巻)の共著者である四宮勤一(マ) (四ノ宮勤一、当時台北一中教諭、1907～1992。同氏『此の道一筋』(自己出版、昭和44年9月30日刊)口絵)、⑧『警察語学試験問題及解答集』(『著作集』補遺)の共著者である東方孝義(当時法院通訳元練習所教官、1889～1957)四氏の肖像を掲載した。四ノ宮勤一氏のものを除き、他の四氏の写真は『著作集』別巻口絵掲載の練習所各記念写真から採録した。

⑨ 警察会館

写真は、『台湾警察時報』第22号(通巻第171号、昭和5年12月1日刊)1頁掲載の「新装美々しく成れる吾等の警察会館」なるキャプションがついたものである。なお、同号12～15頁に警察会館特集記事を掲載している。また、『台湾の警察 昭和六年』(台湾総督府警務局、昭和7年1月31日刊)301～302頁「附一 警察協会」にも同会館の写真が掲載されている。警察会館は昭和御大典を記念する事業として建築されたが、新公園の博物館近くの旧台北市明石町1丁目3番地(現在は台北市の有名な予備校街である南陽街近辺の雑居ビルか。)に在った。三層楼で昭和5(1930)年10月に竣工し、同年12月1日より開館した。鷺巣は督府警務局囑託としてこの小会議室を使用して『台湾総督府警察沿革誌』等の編纂職務に従事していた(『著作集』別巻445頁参照。)

⑩ 米軍昭和20年6月17日撮影航空写真での台湾総督府警察官及司獄官練習所(出典:台湾・中央研究院地理資訊科学研究專題中心—海外歴史図資徵集与典藏)

台湾のHP「林小昇之米克斯拼盤」中「警察官及司獄官練習所(2011年2月17日掲載)」(http://linchunsheng.blogspot.com/2011/02/blog-post_17.html) 所載の諸写真のうち米軍による有名な昭和20(1945)年5月31日台北大空襲後の同年6月17日同軍撮影に係る練習所航空写真である。去る平成23(2011)年春に台湾の識者より紹介をうけた。原典は台湾の「中央研究院人文社会科学研究中心地理資訊科学研究專題中心—台北市百年歴史地図」である。今般本書に収録するに当たり、中央研究院人文社会科学研究中心の御了解と御高配を賜った。厚く御礼申し上げるものである。

(<http://gissrv4.sinica.edu.tw/gis/taipei.aspx>)。

昭和19(1944)年頃に練習所の新庁舎、新講堂が建築されたとは聞いていたが、このことは終戦に近い時期のこともあって文献的には今まで判然としていなかった。そこで、

本書に参考資料 2 として台湾総督府警察官及司獄官練習所『練習生必携』（昭和 19 年 1 月刊）48 頁掲載の「屋外掃除分担区域図」を収録（本書 265 頁）するとともに、本写真を掲載した。これにより終戦間近の練習所構内図が把握でき、1970 年代中葉迄同地に在った中央警官学校（現中央警察大学）との対比が可能となった。なお、右側に見える帯状の線は鉄道縦貫線で、上が台北駅方向、下が万華駅方向に当たる。

10 附録

【附録 1】旧台湾警察諸警友会の回顧

（省略）

（参考）

- ・本 HP 別稿「旧台湾警察諸警友会の回顧—日本統治下台湾警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/keiyukai.pdf>〉参照。

【附録 2】鷺巣敦哉略年譜（改訂稿）

（省略）

【附録 3】本 HP 掲載鷺巣敦哉氏関係資料一覧（令和 4（2022）年 7 月 28 日追加）

- ・「鷺巣敦哉氏と『台湾総督府警察沿革誌』の編纂について—日本統治下台湾警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu001.pdf>〉
- ・「鷺巣敦哉氏著作目録抄—日本統治下台湾警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu002.pdf>〉
- ・『鷺巣敦哉著作集 補遺』（緑蔭書房、平成 26 年 7 月 31 日刊）概要—日本統治下台湾警察史の一齣—」（本稿）
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu003.pdf>〉
- ・『鷺巣敦哉著作集』V（「雑誌所収著作」：緑蔭書房、平成 12 年 12 月 10 日刊）、同別巻（「警察試験叢書・雑誌所収著作補遺・索引」：同、平成 14 年 1 月 31 日刊）及び『鷺巣敦哉著作集 補遺 警察試験叢書（続）・雑誌所収著作補遺（続）・索引』（同、平成 26 年 7 月 31 日刊）所収論稿一覧—日本統治下台湾警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisukiko.pdf>〉
- ・「鷺巣敦哉氏著『台湾統治回顧談（台湾の領有と民心の変化）』（台湾警察協会、昭和 18 年 9 月 20 日刊）・雑誌『台湾地方行政』比較対照表（三訂稿）—『鷺巣敦哉著作集』IV（『台湾統治回顧談〈台湾の領有と民心の変化〉』：緑蔭書房、平成 12 年 12 月 10 日刊）参考資料— —日本統治下台湾警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisukaiko.pdf>〉

- ・「東方孝義・鷺巣敦哉両氏共編『警察語学試験問題及解答集』（警察試験叢書第四編、自己出版、昭和10年11月30日刊）の再発見 ―日本統治下台湾警察語学教養の一齣―」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/higashikata001.pdf>〉
- ・「鷺巣敦哉氏『警察試験叢書第一編・向上受験の手びき 附 全警察試験問題』及び台湾総督府警察官及司獄官練習所『練習生必携』（昭和19年1月刊）一瞥 ―最近台湾再発見の日本統治下台湾警察史関係希観書二題― ―日本統治下台湾警察史の一齣―」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisutebiki.pdf>〉
- ・「村上収氏の御逝去を悼みて―『台湾総督府警察沿革誌 第二編 領台以後の治安状況 中巻 ―台湾社会運動史―』編纂過程の究明によせて― ―日本統治下台湾警察史の一齣―」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/murakami001.pdf>〉
- ・「木村貞次郎氏台湾語関係著作目録抄―日本統治下台湾警察語学教養の一齣―」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kimura001.pdf>〉

あとがき

本書刊行については、日台両地の多数の方々より御高教、御高配を賜わった。ここに記して、深甚の謝意を表すものである。これで鷺巣敦哉の個人著作の大半は『鷺巣敦哉著作集』に収録し得たことになるが、なお未判明、未発見のものが多少存在する。これらについて御示教の程切にお願いいたす次第である。

(了)